

文化動態ユニット 公開研究会

日時：2008年7月17日（木曜日）午後3時半から午後6時半

場所：AA研セミナー室(301)

報告者名：神崎 繁（専修大学文学部教授）

報告タイトル：「魂の像としての身体—所謂「二重表現」を中心に—」

報告内容：古代ギリシャ、とりわけアルカイック期の魂の像について、ホメロースの詩をテキストに分析を行った。その結果、「身体の像としての魂」という原初的な考えが、それから数百年後の古典期においては、「魂の像としての身体」へと正に逆転していることが見られた。その時、詩中に見られる「彼はわが胸を打ち、己を叱っている」、「胸の内の己の心に訴えかけて」、「思案しつつ、右に左に身を反転し」と言った、同じ内容の感情を身体表現を交えながら重ねて述べる「二重表現」が、その転換を橋渡しする役割を果たすことになる。すなわち、このホメロースの詩句をめぐるプラトンの注釈の中では、身体よりも魂を、魂よりも知性を、知性よりも一者を序列づけるいわば、「像のヒエラルキー」が提示されており、二重表現における魂と身体との並列性の考えからは大きく異なっていることを示しているからである。